

学位論文審査の結果の要旨

小山 公成

本研究は、環境エンリッチメント(ペア飼育)およびその代替法としての人への親和性強化トレーニングが実験用途の未性成熟カニクイザルの行動および血液、尿における各種分子、糞便細菌叢に与える影響について検討したものである。日中7時間のペア飼育は単飼育と比較して、カニクイザルの親和性行動、増体を増加させ、常同行動を減少させたため、ペア飼育によるカニクイザルのウェルビーイングの向上が確認された。また、ペア飼育のカニクイザルの血清カルシウム、血漿コルチゾール、4-エチルフェニル硫酸およびドーパミン濃度は、単飼育のものとは比べて低下していたため、これらの血液中の分子はウェルビーイングのマーカーになることが示唆された。これらの知見は、カニクイザルにおけるウェルビーイングの客観的指標を提示するものであり、実験動物を適切に飼育管理するために画期的な成果である。

以上のように本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値のあるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

小山 公成

最終試験は、令和元年6月15日に茨城大学農学部にて、学位論文の公開発表会に引き続き、学位論文審査委員全員参加のもとに行われた。最終試験では、学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本学位論文審査委員会は、小山公成君が自立して研究を進めることができる能力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると判断し、最終試験を合格と判定した。